

米国 ヘッドラインが10ヵ月ぶりに下落(07年8月消費者物価)

発表日：2007年9月19日（水）

～エネルギー価格が大幅に下落。コアインフレのトレンドは変わらず～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : sei.ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

- 8月の消費者物価（総合）は前月比▲0.1%と前月から鈍化し市場予想を下回った。食品価格が同+0.4%と加速したものの、エネルギー価格が同▲3.2%と下落幅を拡大した。
- エネルギー・食品価格を除く消費者物価（コア）は前月比+0.2%と市場予想通り。景気減速に伴って基調としては物価上昇圧力が減退しているが、物価の鈍化ペースは緩やかなものにとどまっている。財価格は価格競争が激しいため非常に安定しているが、住宅購入の鈍化に伴う賃貸需要が増加している家賃（帰属家賃）や、高齢化が進むなかで需要が強まっている医療などサービス価格の上昇圧力は強い状態が続いている。
- 前年比では総合が+2.0%（前月+2.4%）、コアは+2.1%（同+2.2%）と鈍化した。コアインフレが鈍化傾向を辿っているものの、FRBが物価安定と判断しているレンジの上限付近で推移していること、さらに景気が底堅く推移するなかで稼働率が8月81.9%と高い水準で推移し失業率がNAIRUを0.6%ポイント下回っていること、原油価格が最高値を更新する状況が続いていることなどから、FRBの一部インフレリスクが残っていると判断は変わらないとみられる。
- 総合、コアともに鈍化したが、FRBの大幅な利下げ、原油高等によるインフレ懸念の高まりから債券利回りは上昇した。

消費者物価 (Consumer Price Index)

	消費者物価		消費者物価 (Consumer Price Index)									
			コア		エネルギー	食品	住宅	アパレル	運輸	医療	商品コア	サービスコア
06/11	+0.0	(+2.0)	+0.096	(+2.6)	▲0.2	▲0.1	+0.4	▲0.1	▲0.8	+0.2	▲0.4	+0.3
06/12	+0.4	(+2.5)	+0.144	(+2.6)	+4.2	▲0.1	+0.4	+0.2	+1.7	+0.2	+0.0	+0.2
07/01	+0.2	(+2.1)	+0.256	(+2.7)	▲1.5	+0.7	+0.2	+0.3	▲0.8	+0.8	+0.1	+0.3
07/02	+0.4	(+2.4)	+0.241	(+2.7)	+0.9	+0.8	+0.4	+0.5	+0.1	+0.5	+0.1	+0.3
07/03	+0.6	(+2.8)	+0.061	(+2.5)	+5.9	+0.3	+0.2	▲1.0	+2.8	+0.1	▲0.1	+0.1
07/04	+0.4	(+2.6)	+0.177	(+2.3)	+2.4	+0.4	+0.2	▲0.3	+1.2	+0.4	▲0.1	+0.3
07/05	+0.7	(+2.7)	+0.150	(+2.2)	+5.4	+0.3	+0.2	▲0.3	+2.8	+0.3	▲0.1	+0.3
07/06	+0.2	(+2.7)	+0.232	(+2.2)	▲0.5	+0.5	+0.3	▲0.6	▲0.2	+0.2	▲0.1	+0.3
07/07	+0.1	(+2.4)	+0.236	(+2.2)	▲1.0	+0.3	+0.2	+0.4	▲0.3	+0.6	+0.1	+0.3
07/08	▲0.1	(+2.0)	+0.150	(+2.1)	▲3.2	+0.4	▲0.0	▲0.5	▲1.2	+0.5	▲0.0	+0.2

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

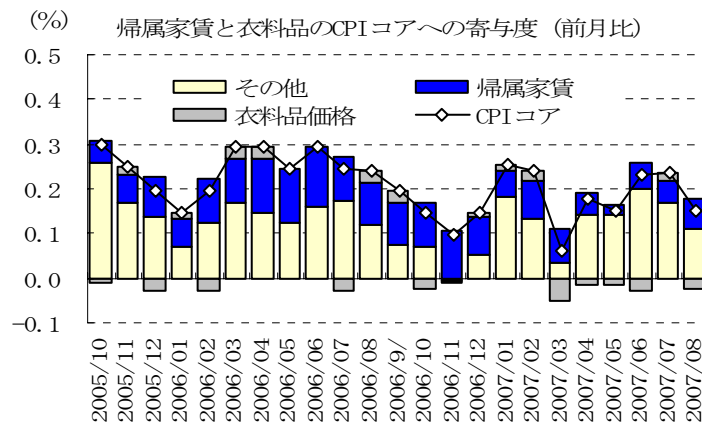
CPIは前月比▲0.1%と市場予想を下回った 07年8月の消費者物価（総合）はエネルギー価格の下落幅拡大によって前月比▲0.1%と減少に転じ市場予想の同+0.0%を下回った。食品価格が同+0.4%（前月同+0.3%）と加速したものの、エネルギー価格が同▲3.2%（同▲1.0%）と下落幅を拡大した。エネルギーでは燃料油が同+0.2%（同+3.4%）、ガス・電力が同▲1.3%（同▲0.5%）、ガソリン価格が同▲4.9%（同▲1.7%）と下落幅を拡大し、全体を押し下げた。

CPIコアは前月比+0.2%と市場予想通り

エネルギー・食品価格を除く消費者物価（コア）は自動車価格、衣料品、医薬品費等の上昇により前月比+0.2%と市場予想通りとなった。景気減速に伴って基調としては物価上昇圧力が減退しているが、物価の鈍化ペースは緩やかなものにとどまっている。財価格は価格競争が激しいため非常に安定しているが、住宅購入の鈍化に伴う賃貸需要が増加している家賃（帰属家賃）や、高齢化が進むなかで需要が強まっている医療などサービス価格の上昇圧力は強い状態が続いている。

サービスコアは前月比+0.2%、商品コアは同▲0.0%とともに鈍化

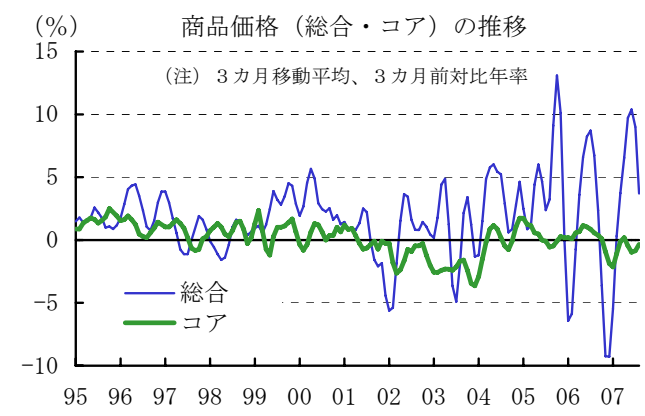
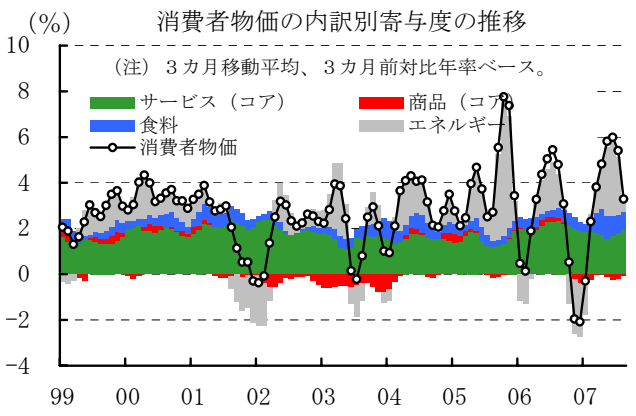
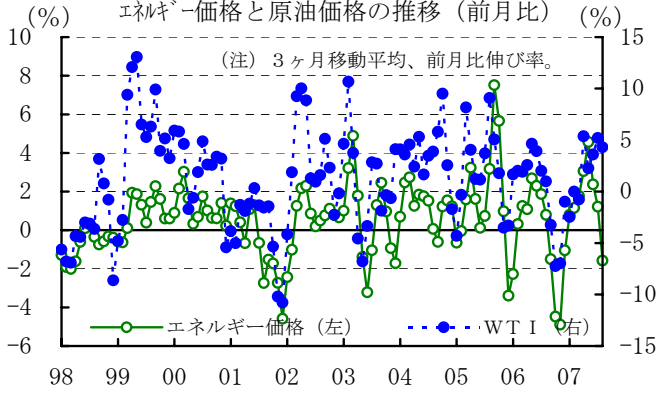
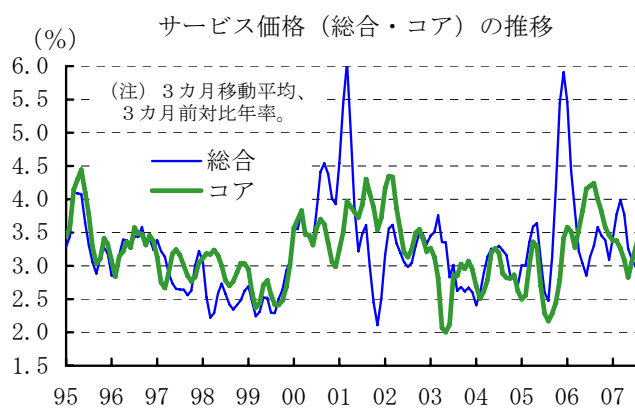
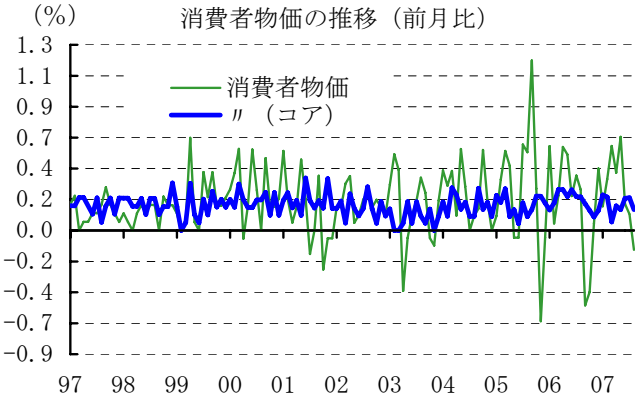
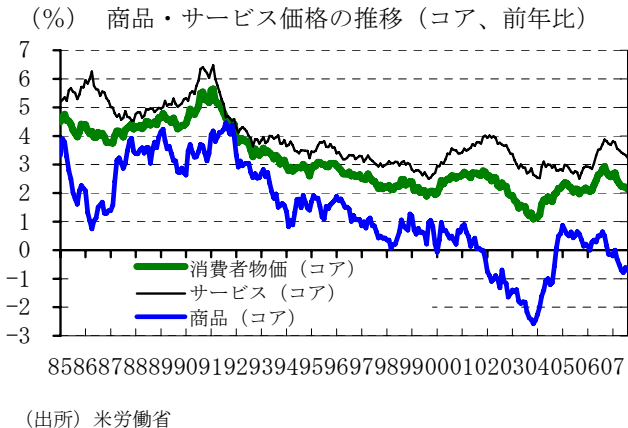
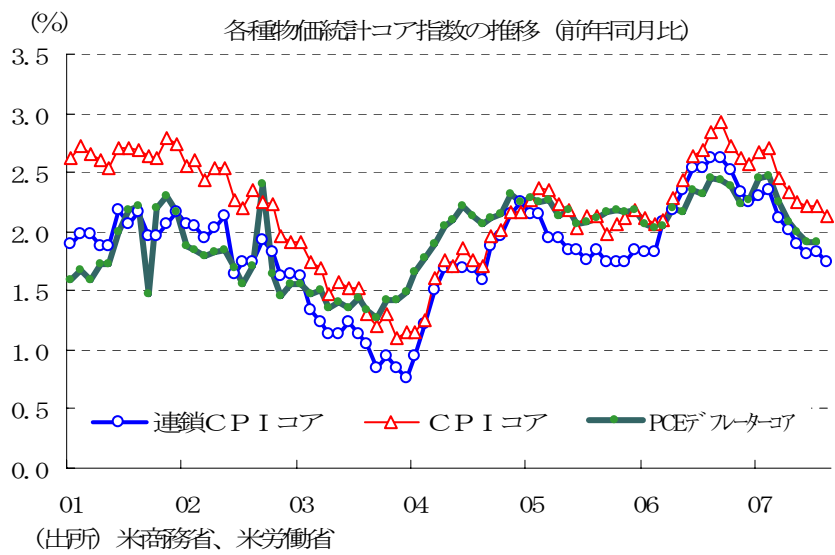
CPIコアは、生産者物価や輸入物価の影響を受ける商品価格（除くエネルギー・食品）が3分の1を占め、サービス価格（除くエネルギー）が3分の2を占めている。8月の商品価格（除くエネルギー・食品）は前月比▲0.0%（前月同+0.1%）と鈍化した。中古車・トラックが同+0.8%（同+0.7%）、新車が同0.1%（同0.0%）と加速したが自動車全体では同+0.3%（同+0.3%）と同率の伸びとなった。一方、医薬品が同+0.4%（同+0.6%）と小幅鈍化した。さらに、女性用の下落幅が縮小したが男性衣料が下落に転じたため衣料品は同▲0.5%（同+0.4%）と下落した。サービス価格（除くエネルギー）は前月比+0.2%（前月同+0.3%）と鈍化した。電話サービスが同+0.2%（同+0.1%）と加速し、娯楽が同▲0.1%（同▲0.1%）、教育費が同+0.5%（同+0.5%）、帰属家賃が同+0.2%（同+0.2%）、輸送サービスが同+0.4%（同+0.4%）と前月と同率の伸びとなった。一方、ホテルなどの宿泊費が同▲0.6%（同+0.8%）、賃貸料が同+0.2%（同+0.3%）、医療サービスが同+0.5%（同+0.6%）と鈍化した。



前年比では緩やかに鈍化

各種消費者物価統計の前年比での動向では、総合が+2.0%（前月+2.4%）、コアが+2.1%（同+2.2%）と鈍化した。より実態の物価動向を示す連鎖CPIコアは+1.74%（同+1.83%）と小幅減速した。コアインフレが鈍化傾向を辿っているものの、FRBが物価安定と判断しているレンジの上限付近で推移していること、さらに景気が底堅く推移するなかで稼働率が8月81.9%と高い水準で推移し失業率がNAIRUを0.6%ポイント下回っていること、原油価格が最高値を更新する状況が続いていることなどから、FRBの一部インフレリスクが残っているとの判断は変わらないとみられる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。